

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)について

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)とは、幼児教育のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園など修了時の具体的な姿を示したもので、幼児教育から小学校教育への円滑な接続となる手掛かりとして活用することができるものです。

健康 な心と体	園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立 心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同 性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳 性・ 規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会 生活との 関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもちようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考 力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然 との関わり・ 生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量 や図形、 標識や文字などへの 関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉 による 伝え合い	保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性 と 表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

参考：幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領より

子どもの遊びや活動・学習(授業)にみられる 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

一つの遊びや活動・授業の中から、
さまざまな子どもたちの育ちの姿が見えてきます。

5歳児事例 「虫の飼育、観察をしよう」

園庭で虫を見つけた子どもたちは、早速飼育ケースに虫を入れて、
観察したり、図鑑で調べたりして楽しめます。

言葉による伝え合い

不思議に思ったことや驚いたこと、疑問に思ったことなどを友達や保育者に伝える姿があります。発見や感動があるからこそ、言葉で伝える喜びを感じ、楽しむようになります。



自然との関わり・生命尊重

身近な自然に好奇心や探求心をもって関わることで、小さな命の存在に気付き、大切にしようとする気持ちが育まれていきます。

社会生活との関わり

「もっと知りたい!」という思いから、図鑑で調べたり、誰かに尋ねたりします。保育者や家族に、インターネットで調べてもらう、昆虫館に行ってみるなど、周りから情報を集めていくことにもつながっていきます。

1年生事例 〈算数〉「かたちをつくろう」

箱や段ボールなどを使って、グループごとに
友達とイメージした物を一緒につくっていきます。

豊かな感性と表現

幼児期のイメージを膨らませながら形にしているこうした経験を生かし、どんなものをつくりたいか、考えやイメージを表現することを楽しんでいます。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

幼児期の積み木や製作遊びの中で、物の形の特徴を捉えながら見立てる経験をしています。授業の中で、立体の特徴に着目しながら取り組んでいくことにつながっていきます。

協同性

幼児期に友達と関わり協力して遊ぶ経験を積み重ねることで、授業の中でもグループで友達と考えを出し合い、工夫しながら協力して一つのことをする力につながっています。